

㊦ 2年生 | 「大きくなった自分」

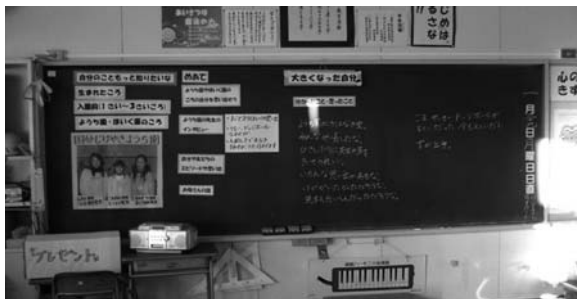
幼稚園・保育園の頃の自分を思い出そう

2年間の生活科学学習を締めくくる単元「大きくなった自分」は、自分の誕生からこれまでの成長の様子を、家族へのインタビューや思い出をもとに調べ、これからの生活に意欲や願いをもつことをねらいとしています。そして、自分の成長を振り返るだけでなく、成長を支えてくれた家族や身近な人々の存在に気付き、感謝の気持ちをもつことのできる授業展開が大切だと考えます。

○『プレゼント』でタイムトリップ

子どもたちの前に『プレゼント』と書かれた箱が置いてあります。その中からラジカセが出てきます。テープをかけると幼稚園の先生の声がします。「先生が一番思い出に残っているのはお泊まり保育です。マイムマイムをみんなで踊りましたね。大変だったことは入園式です。お母さんと離れることが嫌で泣いている子がいました。早く慣れてもらえるようにと、手遊びをしたり、歌を歌ったりしました。笑顔で元気に幼稚園に来てくれた時はとても嬉しかったです」

子どもたちは口々に「〇〇先生の声だ」と目を輝かせながら言います。自分の園の先生の声でなくても自分の先生の言葉のように聞こえてくるようで、とたんにその頃の思い出を語り始めます。導入のタイムトリップは大成功です。



▲ラジカセを入れる箱（プレゼント）を用意しました。

その後、持ち寄った幼稚園・保育園の頃の思い出の品々を紹介し合うことで、子どもたちは友達も同じように様々な思い出をもちながら成長してきたことに気がきます。



▲幼稚園で着ていた作業着

○特別ゲストはお母さん

授業を参観しているお母さんにサプライズで登場してもらいます。（もちろん綿密な打ち合わせ済み）

「初めは幼稚園に行くのが嫌で、泣いてばかりいて心配しました。園児服をもってパジャマのまま登園したこともあります。でも年中、年長の頃は休むことなく幼稚園に通い、皆勤賞のメダルをもらうことができました」

母の思いや苦勞を、楽しく語ってくださいます。子どもたちは一番身近なところで支えてくれた家族の思いに触れます。

○自らかかわり、自ら気付く

学習の最後は振り返りの時間です。ワークシートに気付きをまとめ、発表します。ここで教師の出番です。周りの人々の支えに気付き、感謝の気持ちを書いている子どもに発言を促し、発表してもらい、他の子どもたちにも気付きを広げます。

「多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと」に気付き、「これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつ」ためには、子どもの心を揺さぶる手立てや仕掛けが必要です。そしてひとりひとりの気付きを響き合わせながら、気付きを質の高いものへと導いていくのが教師の役目です。